

令和5年度 学校運営協議会活動報告

	開催日	出席 委員数	主な議事・活動内容と学校運営協議会委員の意見	
			主な議事内容	委員の主な意見
開催の概要	令和5年7月5日	7人	<p>議題① 学校評価部会より</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度学校評価目標設定について <p>議題② 切れ目ない支援部会より</p> <ul style="list-style-type: none"> 人的交流のねらいと成果について 今年度の金目小学校とのインクルプロジェクトについて <p>(小学部児童活動参観)</p> <p>協議・懇談「インクル湘南」との協働について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目標の評価について、できるだけ定量的にはかかれるといい。どの程度の達成か、半分か、7割かのように、できるだけ定量的に判断できるようにしてもらえるといい。 人的交流は今年3年目、教員の意識はかなり変わってきた。小中学校で地区別支援のニーズは高い。特別支援的な視点は教員に求められている。支援校教員が入ることで教員の意識変容は大きくあったと思う。勝負は来年度以降だと思う。今は毎日支援校の教員と話せる環境。来年度は支援校の教員は学校にいなくなる。本当に今の意識をつないでいけるのか。 「インクル湘南」との協働活動がスタートしたが、具体的な活動とねらいが大切。どう連携していくのか。児童生徒の自立と社会参加にむけて、どういふところを重点的に取り組むか。コンセンサス作りが大切である。
	令和5年12月4日	6人	<p>議題① 学校評価部会より</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度 学校評価中間評価について 新しいミッションと令和6年度からの4年間目標について <p>議題② 切れ目ない支援部会より</p> <ul style="list-style-type: none"> 「インクルシブな学校づくり」 今年度の取り組み 金目小学校との小中学部交流について 金目小学校における高等部の活動について 人的交流の成果 <p>議題③「ひらサボ」の活動について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校をインクルーシブ化する必要があると思うので、そこへの支援を要望したい。「センター的機能を発揮し」というところをどうしていくのか。具体的にははっきりとさせてほしい。 人の交流は大事。職員同士が顔を合わせるには手間もあるが、実際に顔を合わせる機会を作るとか、実際に職員同士がかかわる必要がある。週に1回小学校に来てくれて話し合ってくれるなど、定期的にやりとりできるといい。 P T Aを発展的に解消した後に「ひらサボ」をスタートできたことは良い。今後を考えるとアンケートを取るの大事。学校の要望と、サポーターとのマッチングを検討する場がないことが課題。ひらサボをすすめるときにインクル湘南とどうしていくかを検討していくといい。地域と学校をよく知っている人がいるかどうか大事。一緒に考えていくと、活動としては充実する。
	令和6年3月5日	7人	<p>協議 第1部</p> <p>議題① 学校評価部会より</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度学校評価年間評価について 令和5年度学校評価保護者アンケート集計結果について 4年間の目標に対する達成状況 <p>議題② 切れ目ない支援部会より</p> <ul style="list-style-type: none"> インクルシブな学校づくりについて <p>議題③「インクル湘南」との協働活動について</p> <p>協議 第2部</p> <p>議題：新しいミッションと令和6年度からの4年間目標策定について＝グランドデザイン案の検討＝</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の保護者アンケート回答率の減少傾向対策としては、紙での回答に加え、フォームメールなどの導入も検討してはどうか。 地域との協働に関する4年間の取組の達成状況評価については、これまで積み重ねてきた実績は高く評価しても良いと思われるので、達成率は80%以上の◎として良い。 センター的機能の中で、進路に向けた研修を小学部から対象にするのはとても良いと思うが、地域の特別支援学級の保護者が進路情報を得ることが難しいので、そこも対象にできるような学びの機会も検討してもらえると良い。 地域の学校におけるインクルーシブ推進をセンター的機能とするならば、人的交流を行った小学校に対しては大きな働きをした。今後は人的交流終了後の小学校を含めた地域の小中への関わり方を具体的に計画する必要がある。 地域を巻き込んでいくのは協働本部（インクル湘南）を活用できる。地域との様々な関わり方を推進したい。 グランドデザインには「インクル湘南」と記載して良い。
部会の取組結果	設置部会		成果と課題	
	学校評価部会		<p>成果（具体的な取組内容と結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度はもとより、R2年度からの4年間の学校目標とその達成状況を振り返り、おおむね良い達成状況にあると評価していただくことができた。 委員からの具体的な意見を評価に反映させ、新たな目標設定に資することができた。 <p>課題（今後の取組に向けた課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 定性的評価だけでなく定量的に評価できる目標の設定も考慮する。 学校評価の保護者アンケートは、回答方法を検討し回収率を上げる。 	
	切れ目ない支援部会		<p>成果（具体的な取組内容と結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 人的交流の両校の校長が、それぞれの学校の評議員や運営協議会委員として学校経営に参画することにより、インクルパートナーシップの一層の深化が図られた。 共生社会推進協働本部（地域学校協働本部）としての「インクルーシブ・湘南」が発足し、本校を含む平塚市内支援学校4校が関わりあいながら、地域と共に活動する具体的な取組が大きく推進した。 <p>課題（今後の取組に向けた課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> インクルシブな学校づくりをさらに発展的・持続的に推進していく必要がある。 協働本部（インクル湘南）をハブとする学校・地域協働活動の一層の推進と、持続可能な組織・システムの構築が肝要である。 	